

# 「あなたは，“しつけ”をどう捉え、どう対応しますか」

～ 今どきの“しつけ”（日本の子育て）～  
（レジュメ）

2022年9月15日（木）

於：うるま子どもステーション

はじめに

先日、NHKの子育て番組を見ていたら、「孤立する母親たち・・・悩みを打ち明ける仲間が少なくなった。・・・核家族化・・・そして“しつけ”への悩み」という旨のナレーションがあった（そう捉えた）。

それを受け、番組では育児での子の行動への対応に悩む母親相談があり、コメンテーターが「決して叱ってはいけません。子どもに悪気はないのですから、優しく説明してあげてください」と、アドバイスをしていた。

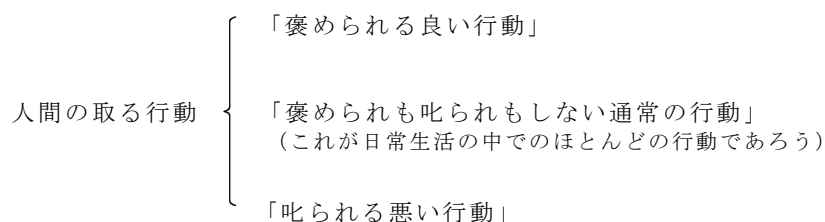
ウム・・・、確かに2，3歳児の場合、生まれて此の方の体験幅はとても狭く、物事の良し悪しが判断できるほど、そう体験はしていないはず。だから、そのコメンテーターの“子どもに悪気はない。だから子どもに説明を”というのには納得がいく。しかし、悪気がないからと言って「叱らず、優しく」というのは、いかがだろうか。

実のところ、近年、子育てのあり方を立場の違ういろいろな方（自称：専門家）が三者三様に主張しており、それを聞く初めて育児をする母親にとって、何が何やらで混乱の元になっているのではないだろうかと思う。

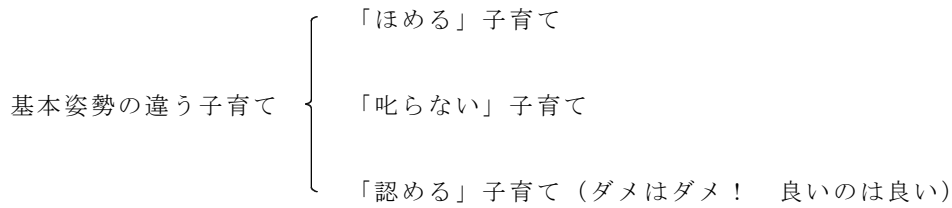
もちろんそれらの主張には、その背景に学問的な違い、さらにその背景には欧米と日本の宗教文化（＝ものの考え方）の違いがあることは否めないだろう。しかし、それであっても日常をこの日本文化で生活している限り、子育てのあり方はその社会や地域の一般規準に則って行われるのが通常であり、それが社会生活を営んでいく上で自然のスタイルだはずである。

そこで本研修会では、この日本文化圏での育児における“しつけ”について考えてみたいと思う。

## 1：人間の取る3つの行動



2：基本姿勢の違う3つの子育て（しつけ）



(1) 「ほめる」子育て

(2) 「叱らない」子育て

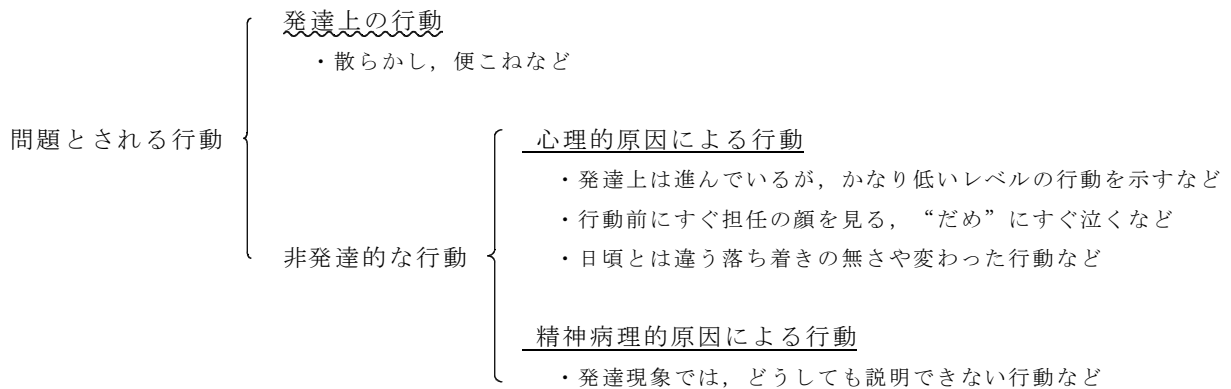
○障がいの特性

①知的障がい：未分化と壁の硬さ → 知的な融通性の問題（難しさ）

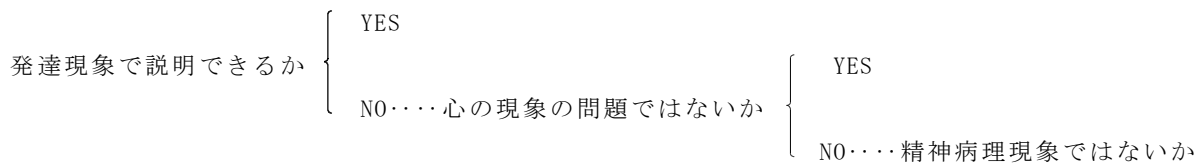
②自閉症スペクトラム障がい：共感性の欠如（⇒「心の理論」問題へ） → 心の融通性の問題（難しさ）

(3) 「認める」子育て（ダメはダメ！ 良いのは良い）

3：問題とされる行動 ～発達現象か，その他の現象か～

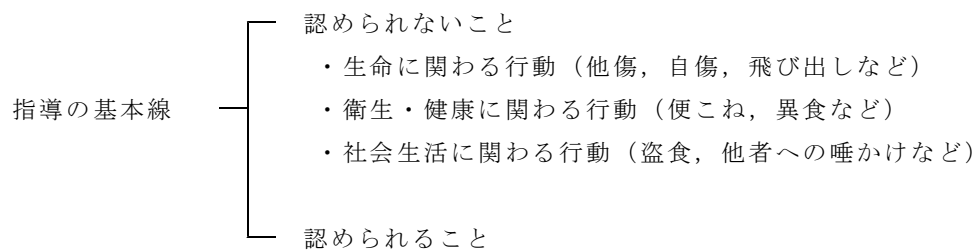


[子どもの問題とされる行動のタイプの推定手順]



4：子育て（しつけ）行為の理想と現実のズレ

5：指導（しつけ）の基本線



6：子育て（しつけ）に対する日本と欧米の違い（捉え方）

《資料》